

港区教育アーカイブ通信_Vol.01

デジタルアーカイブを活用する、新しい教育方法に関する情報を発信☆

1 港区教育アーカイブ通信とは？

港区教育委員会では、港区のデジタルアーカイブ「[デジタル港区教育史](#)」
「[デジタル版 港区のあゆみ](#)」を活用した「港区デジタルアーカイブの教育
活用コンテスト」を開催予定です。

コンテストに先立ち、デジタルアーカイブの教育に関する情報を、主に港区の小・中学校
の先生に向けて発信します。



2 デジタルアーカイブとは？



『デジタル港区教育史』は地域学習や
社会科、総合学習、探究学習等で活用
できるお宝資料の山なので必見です☆
<https://adeac.jp/minato-city-kyouiku/>
各地のアーカイブを横断検索できる
JAPAN SEARCH <https://jpsearch.go.jp/>
もオススメです♪

デジタルアーカイブとは、
デジタル技術を用いて作成されたアーカ
イブのことです。その対象は、博物館、図
書館、文書館や自治体・企業等の資料な
ど、有形無形の多様な文化資源で、今、
学校での活用が期待されています！

3 どんなアーカイブがあるの？



「港区教育アーカイブ通信」
ではVol.1-Vol.3にかけて、
Ⅰ.「教材づくりの視点紹介」
Ⅱ.「港区教育アーカイブの
ピックアップ資料紹介」を
掲載します!ご参照下さい♪



4 どうやって活用すればいいの？



港区教育アーカイブ通信_Vol.01

デジタルアーカイブを活用する、新しい教育方法に関する情報を発信☆

I 教材づくりの視点紹介



Vol. 1: 「問い」の誘発

このコーナーでは、デジタルアーカイブを教材化する際の視点を1号毎に1テーマずつ紹介していきます。Vol.2, Vol.3もリリース予定です。

今回は、「問い」の誘発という視点を紹介します。

新学習指導要領でも、教科横断的に位置付けられている探究学習においては、児童生徒自身の「問い」を基点として、その「問い」に紐づく資料収集を行うことが明示されています。一方で、前提条件とされている「問い」を、上手く立てることができない児童生徒も当然います。

デジタルアーカイブ資料は、そうした児童生徒の「問い」を誘発し、探究学習の入り口で主体的な学びを支援することができる素材で溢れています。

このように、いわゆる学習の導入場面などで、「問い」を引き出すトリガーとしてデジタルアーカイブを活用した教材づくりを行なってみてはいかがでしょうか。

II 「見る・知る・伝える ～港区教育アーカイブ～」のピックアップ資料紹介

①資料名:「戦争ごっこ」

一言紹介:笑顔の裏にある社会的背景の考察に。
戦争期に限らず当時の流行や子どもたちの遊びから現代と比較しながら各時代の特徴を紐解いていく探究学習への発展も面白そうです。



②資料名:「太陽灯設置」

一言紹介:「何をしているのだろうか?」と子どもたちに投げかけるだけで、様々な疑問・想像が膨らんでくるインパクトのある写真です。
今と昔の健康の考え方や暮らしの違い、社会的背景の違いについて、探究していくのも面白そうです。



III 「港区デジタルアーカイブの教育活用コンテスト」開催のお知らせ

令和4年12月～翌1月初旬にかけて、港区デジタルアーカイブの資料を教材に活用した指導案や実践報告を募集します。PDFファイル1枚～10枚程度です。詳細は11月にお知らせ予定ですので、楽しみにお待ちください。

